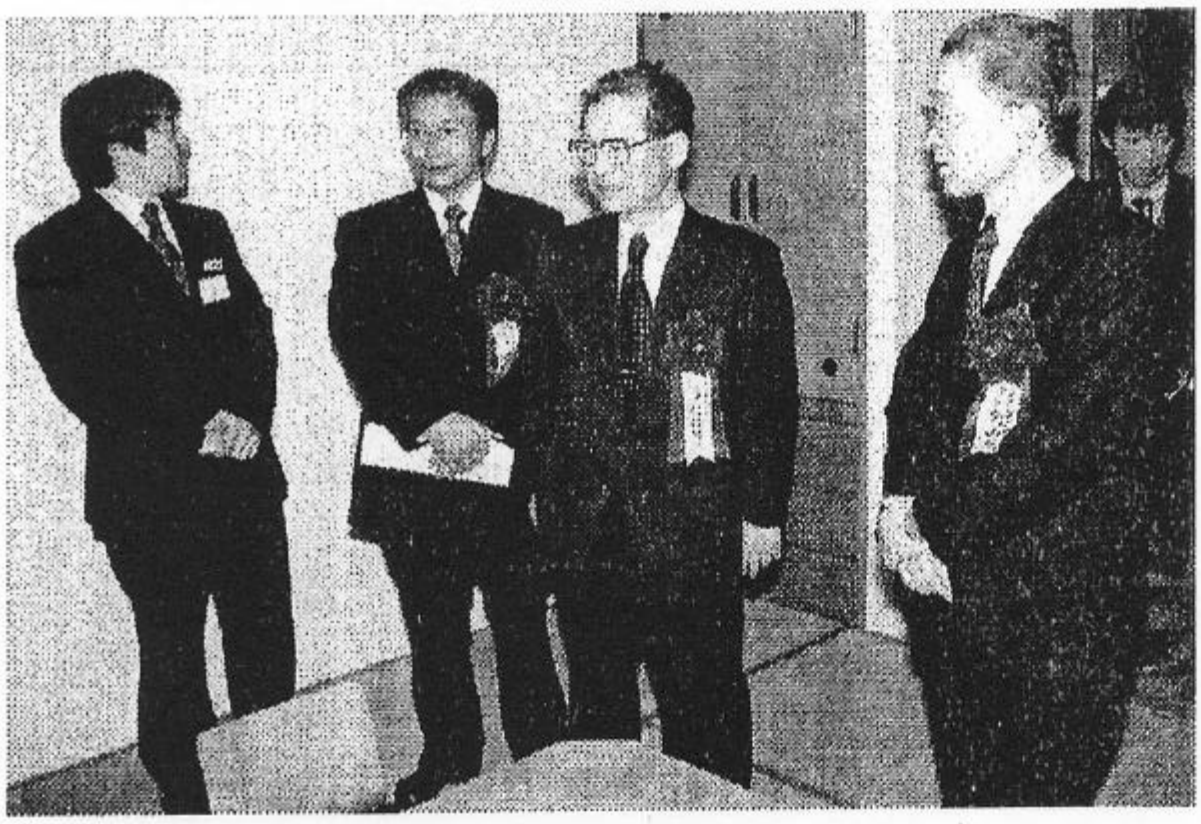
電氣新聞
2002年(平成14年) 3月22日(金曜日)　(第三種郵便物認可)

北大に全電化宿泊施設

北海道電力 50周年記念し寄贈



寄贈式後の内覧会で、北大の中村総長（右から2人目）らと宿泊設備を見てまわる南山社長（右）

北海道電力が創立五十周年記念事業の一環として北海道大学構内に建設を進めてきた「ファミリーハウス」が完成し、このほど、北大への寄贈式が開催された。南山英雄社長が北大の中村睦男総長に目録を贈呈し、「長く北海道の方々に活用してほしい」とあいさつした。

ファミリーハウスは病院に長期入院している患者の家族が、低料金で宿泊できるとともに、患者の家族同士が助け合い、励まし合う場としても活用される施設。この日寄贈されたのは北大医学部付属病院の入院患者の家族のためのもので、鉄筋二階建て・オール電化仕様の宿泊施設となっている。1Kの宿泊室を八室備え、各室にはバス、トイレ、台所、テレビ、エアコン、冷蔵庫などの充実した設備が整っている。また、談話室には北電社員有志が寄贈した子供向け図書なども備えている。総工費は約一億三千万円。

贈呈式には北海道電力から南山社長をはじめ、岩浪國洋常務・札幌支店長、大和田勲常務、北電労組の渡部俊弘執行委員長らが出席。南山社長が「五十周年の記念事業に、北海道に恩返しできるものをと考えてこの施設をつくった。今後長く活用してもらうことを願っている」とあいさつし、中村総長に目録を贈呈した。また、北電労組からも二百万円相当の備品が寄贈された。

これに対し中村総長は「こうした施設は患者の家族の助けになるとともに、北大の医療を縁の下で支えるものであり、大変にありがたい」と感謝の言葉を述べ、南山社長に北海道電力への感謝状を贈呈した。

北海道電力の創立五十周年記念事業はこのほか、札幌医大へのファミリーハウス寄贈を予定しており、今月下旬にも寄贈式を行う。また、江別市の同社総合研究所の敷地内では、地域の人たちの新たな憩いの場となる「水と緑の森」の造成を進めており、二〇〇四年七月に完成する計画だ。